2018年JAF全日本ダートトライアル選手権第5戦 ダートスプリント in 門前［JAF公認No.2018-2206］

開催日：6月16～17日　開催場所：輪島市門前モータースポーツ公園　格式：国内　主催：THREE-R［クラブ登録No.加盟17011］

フォト／中島正義、安達正男、JAFスポーツ編集部　レポート／山中知之、JAFスポーツ編集部

北陸の新星・SA1浦上真選手が全日本初勝利!

第2ヒートでは1分49秒065という2WDオーバーオール2位のタイムで優勝した富山の浦上真選手。待望の全日本初勝利を獲得した。

シーズン折り返しを迎えた全日本ダートトライアル選手権。その第5戦「ダートスプリント in 門前」が、輪島市門前モータースポーツ公園で開催された。

このコースは、長いストレートにアップダウンのある林道風セクションを組み合わせた構成で、ダートラらしい豪快な走りだけでなく、テクニカルセクションにおける巧拙も問われる、ベテランにとっても手強いコースだと言える。

しかも、前日の公開練習がないワンデーイベントのため、路面状況への対応力や適正なタイヤ選択を見極める力が試されるコースだ。

決勝コースレイアウトは、例年とは少し違ったものだった。それはメインストレートをフルには使わず、途中で内周に入るもので、門前名物の“北陸コーナー”も復活していた。

タイトなS字が続く北陸コーナーは、異なるサーフェイスが混在する、参加者にとってかなりスリリングなセクション。全日本ダートラで使われるのは久々とあって、今大会ではこの区間における有力選手のクラッシュも相次いだ。

例年は梅雨明けに開催される今大会も、今年は梅雨真っ只中。しかし、当日は晴天に恵まれて、コースに砂塵が上がるドライ路面となった。

参加台数は136台。毎年多くのギャラリーが詰めかける門前だが、目の肥えた観客を満足させる、熱きバトルが各クラスで展開された。

今シーズンのSA1は、関東の小山健一選手が開幕2連勝で独走。2016年チャンプの稲葉幸嗣選手が1勝して2位に付け、マツダスピードアクセラに乗り換えた崎山晶選手も、1勝してシリーズ3位に付けていた。

その崎山選手は、デビュー初年度の愛車を第4戦スナガワで勝利に導き、慣れた地元での大会に腕を鳴らしていた。そして門前は、地元の北陸勢が速いことでも有名なコース。今シーズンは関東勢に押されてきたSA1の主導権を中部勢が取り返す、絶好のチャンスとなった。

第1ヒートでは、北陸名物のDB8インテグラ

SA1&PN1／**1.**全日本初優勝で「まだ喜び方がわからない（笑）」と初々しい笑顔を見せる浦上選手だが、走りは意外と渋く、ムダのない前に出る走りが印象的。**2.**自己タイムを約3秒アップして浦上選手にコンマ差まで迫った石崎雄一選手がSA1の2位。**3.**SA1の3位は4ドアインテグラ使いの佐藤靖朗選手。**4.**SA1の4位は第3戦切谷内ウイナーの稲葉幸嗣選手。**5.**SA1の5位はポイントリーダー小山健一選手。**6.**PN1優勝は太田智喜選手。「テクニカルなレイアウトならデミオ15MBにも勝機があるんだということが実証できました」と、自身2度目の優勝でデミオ15MBに全日本初勝利をプレゼントした。**7.**PN1の2位はポイントリーダー山崎利博選手。**8.**第2戦恋の浦で優勝したものの今季はイマイチ波に乗れないPN1上野倫広選手が3位に。

9

12

13

14

10

11

N1&PN2 ／**9.**N1優勝の岡翔太選手は「自分はアクセルを抜きたくない派なんですが、ケミコンがあったり、ワダチがあったり、砂利が散らばってたりと、門前特有の路面変化に苦労して、今回は何とかコントロールしてゴールできた感じです」と苦笑。今季4勝目を獲得してタイトル確定に王手。**10.**第2戦恋の浦に続くN1の2位は森大士選手。**11.**約コンマ05秒差の3位はミラージュで奮闘するN1古沢和夫選手。**12.**PN2優勝は宝田ケンシロー選手。「自分の中では、今回は予想よりいい路面になったという印象です。そのためタイヤ選択には苦労しましたが、自分の走りができました」。**13.**PN2の2位は細木智矢選手。第1ヒートとは逆に約1秒差を付けられて惜敗だ。**14.**PN2の3位は河石潤選手。ゲンのいい門前で、開幕戦丸和以来となる2度目の表彰台獲得だ。

15

18

19

20

21

16

17

22

23

N2&SC1&SC2 ／**15.**好調のN2北條倫史選手が第1ヒートのタイムで3連勝。「2本目は歩いたらハケてたのでイケるかなと思ったらタイムダウンでした」と頭を掻く。北條選手と同級生の角皆昭久選手が2位に入った。**16.**今季初参戦だった角皆選手のランサー。**17.**第1ヒートのタイムで3位表彰台を獲得した信田政晴選手。**18.**SC1の2位は奥村直樹選手。**19.**SC1の3位は坂田一也選手。**20.**SC1優勝は山崎迅人選手。「2本目は地元の選手に北陸コーナーの走らせ方を聞いて走りました。4駆勢では超硬質ドライタイヤが微妙だったみたいですが、自分が履いてみたら2駆にはピッタリ合いました」と今季初勝利に笑顔。**21.**今年はスポット参戦のSC2梶岡悟選手が2勝目。「2本目は途中でオーバーランして、そこから負の連鎖でタイムを上げれんかったね。西元（直行選手＝クルマのオーナー）が来週地区戦に出るので壊さなくて良かった」と苦笑する。**22.**SC2の2位は田口勝彦選手。**23.**SC2の3位は吉村修選手。

24

25

26

27

28

29

SA2&D ／**24.**SA2は鎌田卓麻選手が今季3勝目。「2本目にタイムを詰められる要素はありました。でも、思ったより路面が荒れてたのでギリギリの勝利でしたね。何せ0.08秒差ですから」。**25.**第2ヒートはクラッシュを喫した北村和浩選手。第1ヒートのタイムでSA2の2位に残った。**26.**SA2の3位は黒木陽介選手。**27.**Dの谷田川敏幸選手が第1ヒートのタイムで優勝。「1本目は失敗したけど大きなタイムロスではなかったので、何とか逃げ切れた感じだね。2本目は攻めないと意味ないから超硬質ドライタイヤで行ったけど、思ったより荒れててうまくタイムを出せなかったね」と語る。2018年のタイトル確定まであと一歩の4勝目だ。**28.**門前を得意とする亀山晃選手が谷田川選手に約コンマ2秒差の2位。**29.**亀田幸弘選手が3位獲得で今シーズンD部門初表彰台をゲット。

を駆る佐藤靖朗選手がいきなり1分51秒台で暫定ベストをマーク。そして、若手の浦上真選手が1分49秒台というスーパーベストでトップに立った。シード勢は浦上選手には及ばず、崎山選手も1分51秒台で3番手に付けていた。

暫定ベストの浦上選手は、今年からシリーズを追うダートラ界期待の若手ドライバー。富山の改造車乗り・浦上智明選手を父に持つ二世ドライバーで、雪で鍛えたムダの少ない緻密な走りを武器に、第2戦と第3戦では3位表彰台を獲得して、メキメキと頭角を現していた。

迎えた第2ヒート。こちらも門前を得意とする地元の石崎雄一選手が3秒近くのタイムアップで暫定ベストを更新。そして、浦上選手が渾身の走りを披露して、さらにコンマ5秒削って、再びベストタイムを更新してみせた。

後続のシードゼッケンのゴールを待つ浦上選手。慣れない緊張に地団駄を踏む。そして、中間ベストを計測した崎山選手にトラブル発生。その影響で再出走となった、SA1の最終走者である小山健一選手がゴールした。

そのタイムは1分50秒370。暫定ベストには届かず、浦上選手の全日本初優勝が決まった。「小山選手や稲葉選手はどこ走っても速いじゃないですか。崎山さんも地元ですし、待ってる間はドキドキして心臓に悪かったです。走りの方は緊張せず、いつもどおりの走りができたのが勝因だと思います」と笑顔の浦上選手。

地元での優勝ということで、オフィシャルからも手荒い祝福を受けていたのが印象的だった。